

二〇二二年二月一八日

しら梅や書淫に倦みし館の窓  
涅槃図の梟そつぽ向いてをり  
対峙かと思れば合流鳴の陣  
亡き母の描きし雛を飾りけり  
力石発止と打ちて椿落つ  
薄氷や軋みてひらく朝の門  
春空の機影一筋西へ延ぶ  
櫛比なるビル街今朝は春霞  
涅槃会の福火に焚べる御札かな  
春セータ若いと言はれ背すじ伸ぶ  
朧月波が波押す舟だまり

たか子  
うつき  
せいじ  
あひる  
凡士  
ひのと  
きよえ  
はく子  
うつき  
もとこ  
みきお

二〇二二年二月二七日

火に焼かれ身を反りかへす干鰯  
春眠し釣師の竿に魚信なく  
庭の木々弛めてしづる深雪かな  
機影いま春満月にさしかかり  
児ら質問責めや涅槃の絵解僧

ひのと  
素秀  
千鶴  
みきえ  
うつき

二〇二二年二月一六日

雪解けて鉄路ひとすぢ伸びゆけり  
細波を馳す春光の魚影かな  
臥す吾に厨の夫のあたたかし  
春一番あひ撃ち合へる祈願絵馬  
遠霞稜線淡く緩びけり

ひのと  
なつき  
明日香  
ふさこ  
明日香

二〇二二年二月一五日

涅槃図の白象鼻を振りて泣く

よう子

春雨や夫の背丈に傘さして  
日々届く旅のカタログ春隣  
踏青や犬のリードの伸び縮み

せつ子  
たか子  
みきお

二〇二二年二月一四日

春雪が友禅模様描く棚田  
釣り人に小鷺隣りて春の堀  
豆粒の万蕾つけし梅瑞枝  
翠黛のはんなりとしてうらけし  
水仙や島の岬は風粗く  
若布刈竿交互に挿して親子船

明日香  
むべ  
和子  
明日香  
凡士  
素秀

二〇二二年二月一三日

約束のごとく顔出し名草の芽  
レジ袋腰に揺らせて草摘める  
チョコ供ふバレンタインの仏前へ  
愛のチョコ食ぶ夫からのお裾分け  
陽春に併走江ノ電人力車

素秀  
素秀  
千鶴  
なつき  
智恵子

二〇二二年二月二日

接種後の三十分の日向ぼこ  
春日燦おもちやのクマの干されけり  
威勢よき杜氏の手拍子寒造  
起伏野に菜の花さじき展けけり  
姦しき鳥語出窓のヒヤシンス  
春泥を蹴散しゆくは耕運機  
背伸びして鈴の緒振れば山笑ふ

せいじ  
もとこ  
凡士  
千鶴  
みづき  
せつ子  
ひのと

毎日句会みのる選・二〇二二年二月二〇日